

私にとっての平和とは

沖縄県立鏡が丘特別支援学校 高等部一年

立山 楓花

私が小学六年生の時、平和学習の一環で平和資料館に行った。そこで見た悲惨な風景、また、経験談などを聞き、沖縄戦などの戦争は、誰も得をしないし辛いことしか起こらないな、と考えた。そして二度とこんな戦争が怒らないでほしいな、と思った。

私が中学校三年生の時、今度は、自分の地域での沖縄戦のことについて調べ学習をした。

調べてみると、自分の地域では前田高地の戦いが行われていたことがわかった。前田高地の戦いでは、浦添全体で、四千百十二人と四十五パーセントの人が亡くなっており、そのうち前田地区だと五百四十九人と五十九パーセントの人が亡くなっていて、パーセントが増えていることに驚いた。しかも、それは住民の合計だと知り、戦争に関係のないたくさんの人々が巻き込まれ、亡くなっていたことに、もっと驚いた。前田高地は、米軍から「ありったけの地獄と化した絶壁」という意味をこめて「ハクソーリッジ」と呼ばれ、映画にもなっていることがわかった。

これらのことを知り、私は、自分の地域で映画にもなるほどの悲惨なことがあって悲しいと思ったし、だからこそ、平和にするためにも、沖縄に住む自分が色々な人に沖縄戦などの戦争の悲惨さをもっともっと伝えて、戦争などの争いを無くしていかなければならないと決意した。

そして今、イランとアメリカが戦争をしたりしている。私は、その地域にいる被災者の生活を想像してみた。私たちみたいに、勉強や娯楽を楽しむことや食事をとることさえままならない状態

で生活していたり、もしかしたら、家族と離ればなれになっていたりする人がいるなど、悲しい状況におかれているかもしれない。もし、その生活を私がするとなると、障害をもっていて難しいと思ったし、障がい者も戦争に巻き込まれているかもしれないと思うと、ぞっとした。

どうすれば争いはなくなるのか、平和とは何か、と考えた時、ただ単に、食事ができたり、睡眠がとれたりすることだけが平和ではないと、私は考える。食事ができても気持ちが悪くないと平和とは言えないし、睡眠をとれる場所があっても取り合いや奪い合いがあれば平和とは言えない。

私にとって平和とは、互いに思いやって過ごしたり、相手が困っていたら助ける心や、相手を気遣う心をもったりすることだと思う。

そしてそれが、争いをなくすために大事なことだと思うし、性別や国籍、障害などを気にせず、相手を個人として見ながらお互いに助け合うことが真の平和と考える。だから、その実現のために、今、自分自身ができる具体的な行動は何かを考えてみたとき、私は思いやりをもって行動していきたいと思う。デイサービスや学校で相手と接するときに、この人はこういう病気だから、見た目がこうだからなどと決めつけずに、優しく接していきたい。また、自分自身、たくさん福祉サービスに助けられていている分、自分も誰かの助けになることができるように、小さなことでもいいから行動していくことができる自分でありたいと考えている。

誰もが平和に暮らせる世界をつくるために、相手の気持ちを考えながら、自分にできることをこれからも続けていきたい。